

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 30日は、高気圧が西日本付近へ移動して、北日本中心の冬型の気圧配置となる。
- 31日から2月1日にかけて、高気圧が日本付近から日本の南東へ移動する。
- 2月1日から2日にかけて、低気圧が西日本から東日本付近を東進する。
- 3日は、日本付近は冬型の気圧配置となる。

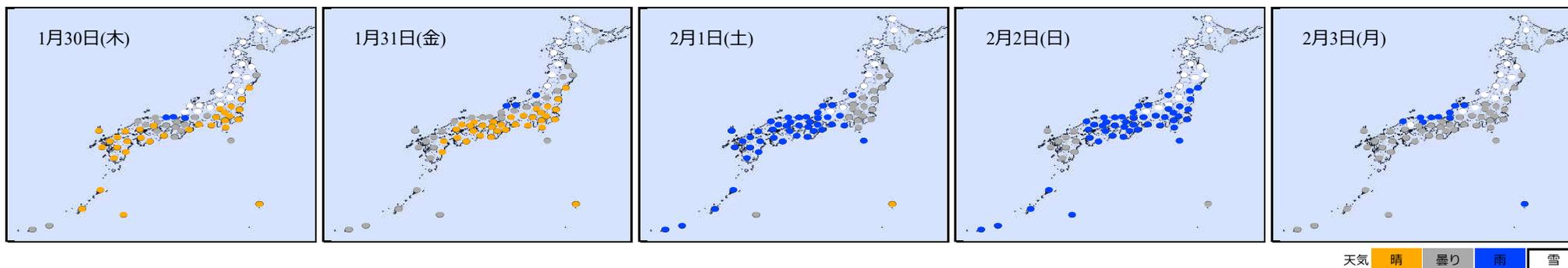
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 30日頃にかけては、日本付近に強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まる見込み。このため、北日本から東日本の日本海側では、冬型の気圧配置の強まりの程度によっては、大荒れや大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

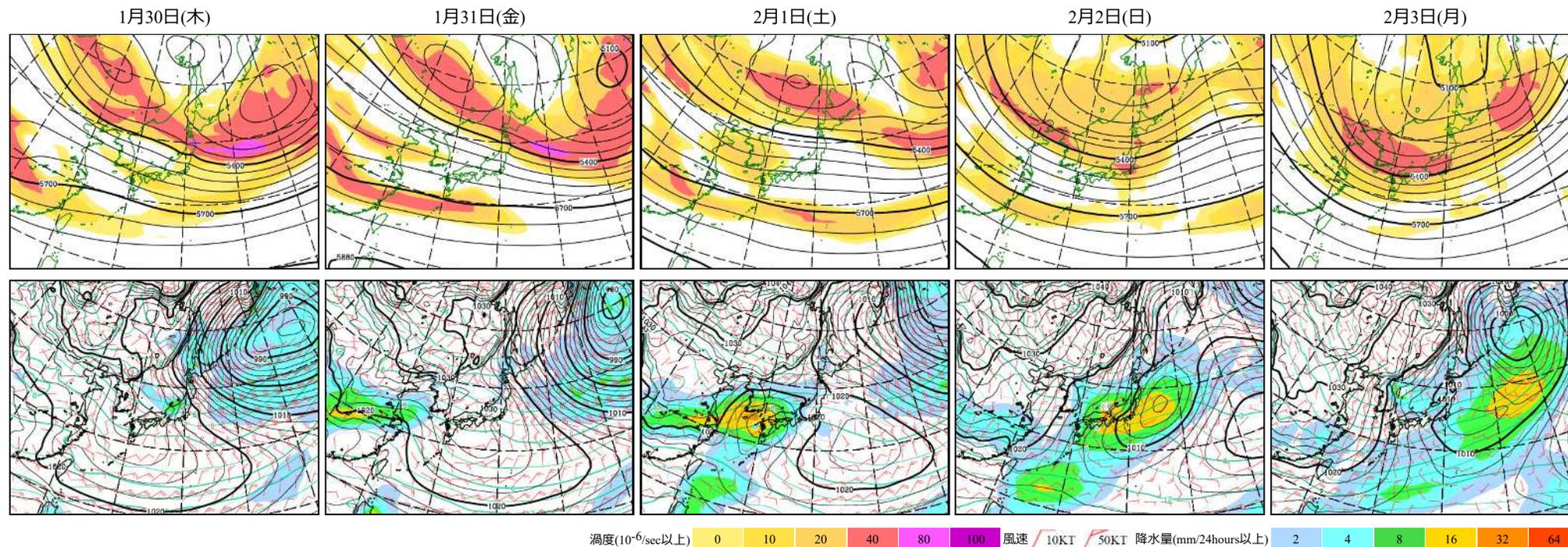
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

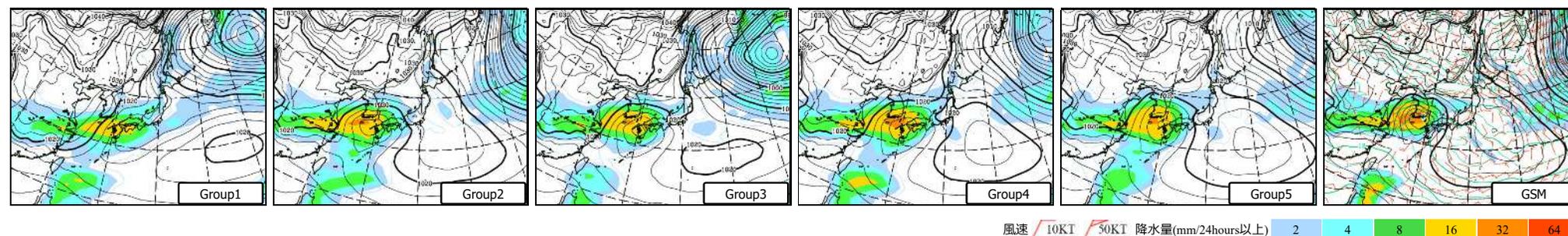


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、2月1日から2日は雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、30日は晴れる所もあるが雲が広がりやすく、1日から2日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、2月1日から2日に西・東日本付近を東進する低気圧が明瞭となり、降水確率は1日の西日本や2日の西・東日本で大きくなった。
- 各モデルの予想は、1日から2日の低気圧は、西日本から東日本南岸付近に進む予想となり、昨日資料に比べると揃ってきた。3日は深いトラフが日本付近へ進み、冬型の気圧配置が強まる予想は揃っているが、日本海の低気圧またはシアラインの予想にはモデル間の差がある。
- スプレッドは、期間の終わりはやや大きいですが、3日に5400mの特定高度線が東日本の南岸付近まで南下する予想はおおむね揃っている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。